

水産庁「未来に残したい漁業漁村の歴史文化財百選」

# 帆びき船

幅十数メートルの白い帆を湖面に広げる勇壮な姿は、霞ヶ浦北浦を代表する風物詩となっており、毎年実施されるフォトコンテストには全国のファンが訪れております。二〇〇六年には水産庁による「未来に残したい漁業漁村の歴史文化財百選」に選定されました。

## ■帆びき船発明者折本良平

当時は大徳網という漁法が主流で、二〇人以上の人手を必要とする大がかりなもので、漁師は日雇いでした。明治十三年、生活用具や農具などの改良や発明をしていた折本良平が帆びき船を発明し、少数で大量の漁獲を得るとともに、漁獲に応じた収入となり漁師の経営改善に大きく貢献しました。

なお、その技術は秋田県の八郎潟にも伝わり、「打瀬船」として親しまれています。伝えたのは現かすみがうら市から秋田県に移住した坂本金吉氏と言われ、歌手坂本九の実祖父です。

## ■帆びき船のメカニズム

帆びき船は、局面の帆がふくらむことで上に押し上げる力が働き、水面を滑るように進むことにより、わかさぎやしらゆきを網で獲るのに必要な速度を確保する、合理的なメカニズムになっています。

